

特集Ⅰ

いなげや田植えツアー

5月20日(土)・21日(日)に、首都圏のスーパー「いなげや」による親子田植えツアーがJAふくしま未来の安達地区本部管内の圃場(大玉村)で開催されました。

当日は、抽選で選ばれた首都圏の消費者10組36名が参加しました。歓迎セレモニーでは、産地側を代表してJAふくしま未来菅野徳一郎安達地区担当常務より、「この田植えツアーを通して福島県の自然と食を十分に堪能いただきたい。また、ご参加される皆様からのお声を聞きながら、さらなる美味しい米作りにJAも取り組んでいくので、今後も、いなげや様を通じて福島のお米をお買い求めいただきたい」と、ご挨拶がありました。



▲JA女性部手作りのお昼はいかがでしょうか？

歓迎セレモニー後には、JA職員や女性部の方々が作ってくれたおにぎりや豚汁の他、アスパラガスの天ぷらなどといった地元の食材を使った料理が振る舞われました。

昼食後には田植え体験が行われ、青空のもと、子供も大人も素足で田んぼに入り田植え体験をしました。泥の中で慣れない作業に四苦八苦しながらも、親子で協力し、用意した田ん



▲いよいよ田植えのスタートです

ほ全てに稲を植えることができました。翌日はアスパラガスの収穫体験や、JAふくしま未来直売所「こらんしよ市」での地元農産物の買い物、安達ヶ原ふるさと村での万華鏡づくりを体験し、参加者は初夏の福島を大いに満喫しました。



▲大きなアスパラを収穫!!



▲真剣な表情で田植えに取り組みました



▲田植え機は早いね!!

特集Ⅱ

震災復興を後押し!

『相馬港米低温倉庫』完成。

福島と宮城の県境に位置する、相馬郡新地町に、昨年10月より建設が進められていた『相馬港米低温倉庫』が完成し、平成29年4月11日に県、町、JA関係者ら約50名が出席して竣工式が行われました。

浜通り地区の営農再開が進む中、地域農業の復興のシンボルとして、また、浜通り産米のブランド復活の拠点として、浜通り管内農家の方々の期待に添える施設を目指して稼働して参ります。

竣工式に先駆けて神事が執り行われ、大橋信夫JA福島五連会長、引地英俊当代表取締役社長ら関係者が安全祈願の玉串奉奠を行いました。

式典では、引地社長が「相馬港米低温倉庫が震災からの復興シンボルとして、地域復興・復旧の後押しをしていきたい」とあいさつ。

続いて、大橋会長をはじめとする来賓の方々からの祝辞、テープカットが行われ『相馬港米低温倉庫』の完成を祝いました。

▲竣工式にてテープカットが行われました

『相馬港米低温倉庫』は、延床面積2,058㎡、低温倉庫2室を設け、3,000ト(50,000俵)の米を収容することができます。



▲相馬港米低温倉庫



▲倉庫内部の様子